

ひきこもり者の社会参加支援及びひきこもり支援従事者研修による作業療法士(OT)のひきこもり支援への参画拡大に関する取り組み

児嶋 亮 ● 京都府作業療法士会 ひきこもり支援 OT チーム 代表



ひきこもり学会内のダイアログの様子

要 旨

推計146万人と言われるひきこもり者への支援には、生物学、心理学、社会学的視点が必要であり、ひきこもり支援OTチームの活動でつながった支援者より精神科分野のリハビリテーション専門職であるOTの関与を求められた。居場所活動やひきこもり支援ネットワークでは、医療的側面の評価を付加することで、当事者および支援者への支援の充足に寄与できた。研修会やひきこもり学会においては、ひきこもりとその支援のあり方についてOT、他職種、他業種に啓発することができた。当事者・家族に加えて、支援者も孤立しがちであるため、支援者間のつながりを創出することにも価値と必要性がある。

地域医療貢献のポイント

- ・ ひきこもり支援ネットワークに医療的観点の情報提供を付加
- ・ 孤立しがちな支援者への後方支援
- ・ ひきこもりとその支援のあり方についての教育と普及啓発
- ・ 当事者の自尊感情復権のための地域活動支援

1. 取り組みの目的と方法

1) ひきこもり支援ネットワークへの介入

①目的：ひきこもり支援に関連する団体や個人とのネットワーク構築と、医療的視点からの情報提供を付加させる。

②方法：各圏域のネットワーク会議への参加や新たなネットワークを構築する。

③実施内容：

- ・ 山城地域ひきこもり支援会 (SHY 会)：コアメンバー
- ・ 令和7年度第1回、2回宇治市不登校・ひきこもり支援連絡会議、研修会：参加
- ・ ひきこもり支援者交流会：主催

2) 当事者、支援者支援

①目的：当事者および支援者にOTによる情報提供および思考過程を付加させる。

②方法：勉強会等に現地またはオンラインで参加。

③実施内容：

- ・ 40歳からの居場所研究会：参加



SHY 会マルシェの様子



全国 OT ひきこもり支援勉強会の様子

3) 地域活動の企画運営補助

①目的：商店街の啓発と、当事者の社会参加の機会創出。

②方法：SHY 会主催の商店街のマルシェにて当事者の制作作品の販売の機会とする。

③実施内容：

- ・ SHY 会マルシェ：運営補助

4) 講演・学会・勉強会

①目的：ひきこもりとその支援の普及啓発

②方法：講演受諾や学会、勉強会主催

③実施内容：

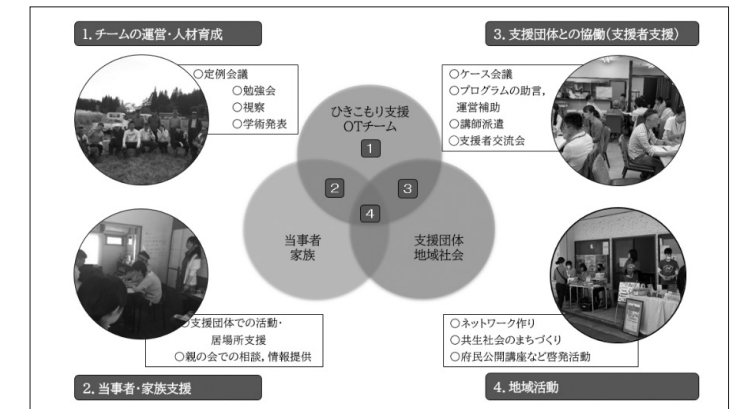
- ・ 第2回精神科在宅医療推進整備事業「訪問看護のための精神科における引きこもり支援についてin 宇治」：講師
- ・ 京都府委託事業令和7年度看護職・介護職等ステップアップ研修事業：講師
- ・ 日本作業療法協会 重点課題研修：様々な生きづらさ(触法、非行、依存、自殺、LGBTQ+SOGI、ひきこもり、民族アイデンティティ、発達障害)に対する作業療法のあり方に関する研修：ひきこもり支援担当
- ・ ひきこもり学会：主催
- ・ 全国 OT ひきこもり支援勉強会：主催

2. 現状の成果・考察

- ・ 地域活動やネットワーク会議にて医療的側面の情報の付加と運営補助
- ・ 支援対象者の協働支援の調整
- ・ 地域活動やひきこもり支援団体が運営する居場所の運営補助
- ・ ひきこもり支援者向けの研修会および交流会の実施による普及啓発活動

ひきこもり学会 プログラム内容

10:00	開会式
10:10	【シンポジウムⅠ】ひきこもり支援の全体像とOTの役割
入口支援	原田 洋平 長崎県作業療法士会
訪問	真下 いずみ 藍野大学
医療	西田 百合香 桜花会クリニックデイケアセンター
社会活動	山下 祐司 NPO 法人 コネクトスポット
11:30	【事例検討】事例から考える家族支援
事例 1	水野 健 昭和医科大学鳥山病院
事例 2	松元 雄太 まるいクリニック
指定発言	今泉 佳代子 NPO 法人 いまから
12:50	昼休憩
14:00	【シンポジウムⅡ】希望へのAction! 社会実践から学んだこと・伝えたいこと
個人活動	白井 はる奈 佛教大学・NPO 法人みらいのとびら
業	坂本 将史 認定 NPO 法人 待学園・スクオーラ今人沖縄校
OT 士 会	児嶋 亮 京都府作業療法士会
OT 士 会	日高 健二 福岡県作業療法協会
15:20	全体ダイアログ
16:40	Q & A



ひきこもり支援 OT チームの活動



40歳からの居場所研究会の様子



SHY 会の様子

- ・ 全国のひきこもり支援に従事するOTの実践報告とそれを学べる学会主催による学習の機会の提供
- ・ ひきこもり支援に従事する行政および支援団体職員のメンタルヘルスへの働きかけ
- ・ 医療を必要とするひきこもり当事者への適切な治療提供およびひきこもりの早期介入と長期化予防
- ・ OTのひきこもり支援の知識技術のアップデート
- ・ 全国の多様な支援と京都のひきこもり支援を相互理解する機会と全国のひきこもり支援の拡充に寄与
- ・ 地域住民へのひきこもり支援の啓発および支援の選択肢の拡大

3. 今後の展望

ひきこもり支援体系へのOTの関与により、当事者、家族、支援者、環境に医療的側面を付加させることにつながった。今後、ひきこもりに関連が深い不登校支援においても働きかけていき、地域社会において不登校・ひきこもり支援のネットワークの発展に伴う、当事者の社会復帰に寄与していきたい。